

多読教室の現場から

第5回

【常葉大学 英米語学科】(静岡県)

担当教師に直撃インタビュー!

多読を通して、
自律した学習者を支援!

良知 先生、柴田 先生
(左より)



貸し出しは、2日以内に読める本!

常葉大学で、英米語学科の1年生を対象に、全クラスで多読授業が始まったのは、2011年。継続的に英語のインプット量を増やすのが目的だ。以来、1年間で100万語突破を目標に、多くの「多読の達人」を安定的に輩出し、実績を積んできた。同大学の多読授業を牽引する良知恵美子先生、柴田里実先生のふたりにその詳細を尋ねた。

成功する多読のポイントとして、ふたりはふたつのポイントを挙げる。「理解度90%を目指す」ことと、「読了語数を伸ばす」ことだ。特に1年間で100万語突破するためには、安定して語数を伸ばすことが不可欠だ。そのためには、授業内の多読だけでは

英語多読に対する関心が年々高まっていく中、先生方はそれぞれ現場の実情に合わせ、様々な工夫した多読授業に取り組んでいます。この連載では、全国の学校や塾における種々の多読授業の取り組みをご紹介します。

足らず、授業外で本を貸し出し、読んできてもらうことが必須だという。

本の貸し出しは、1、2日以内で読める量というのを基準にしているという。あえて「2日以内に読み終える本」という制限を設けることで、無理のない多読を奨励している。

多読なら、毎日続けられる!

またふたりは、「毎日の多読習慣」に必要な情報を網羅した独自の多読リーフレットを作成。多読ノートの記録方法、データが語る多読実績、多読本の種類、100万語多読までの年間スケジュール(レベル別)などが細やかに記載され、授業外であっても、学生が主体的に多読に取り組めるよう工夫が施されている。

「多読の良い所は、毎日、続けられること。多読が絶対ではないですが、『大量のインプットができる』、『毎日続けられる』などの点で、やはり多読は安定感があります。多読を通して、学生自らが現状を把握し、目標を立て、実行することができる自律した学習者を育てていければ」とふたりは話す。

多読実践データ

学年:1学年、2学年(一部)

内容:授業外での多読が中心

場所:外国語学習支援センター、図書館

多読の蔵書は、外国語学習支援センターと図書館を合わせて約1万1000冊。1年間で100万語突破を目標としている。成績評価あり(読了語数や多読ノートから成績の10~20%を多読で評価)

多読授業の詳細をレポート!

授業外多読を中心に、多くの多読の達人を輩出している常葉大学。そこには学生同士で助け合う、優れた仕組みがありました。

1年で100万語突破を可能にする授業外多読

多読授業は、英米語学科1学年の全員と2学年の一部で実施。1週間に1コマ(90分)、授業内で多読を扱う。初級・中級・上級クラスのうち、初級クラスのみ、授業内でも20分程度しっかりと本を読む。

一方、中・上級クラスは授業外で本を読んでくるのが主体。授業内では読解や文法などを進め、多読に15分程度充てる。多読ノートは教師が毎回チェック。多読の時間は、1週間の多読の進捗状況を学生同士で話し合うほか、教師がおすすめの本を紹介したり、1年間で100万語読むには現在、どのぐらいのレベルの本をどのぐらいのペースで読むべきか戦略についてアドバイスしたり、学生からの質問や要望に対しフィードバックしたりしている。

スランプのときに使える、多読の「壁」一覧

同大学では、多読を進めていく各段階でぶつかる壁を以下のように整理して提示。学生自身の気づきを促している(同大学の多読リーフレットを参考に編集部で抜粋・構成)。

① 1冊の語数の壁

1冊の語数が長いほうが読みづらいという壁。例えば300語の本を10冊と、3000語の本を1冊とでは、後者のほうが難しい。

② 2000語の壁

15~20分間集中して、1冊が2000語以上の本を楽に読めるようになるかどうかという壁。

③ 5000語の壁

1冊5000語ぐらいの本を40~50分で読めるかどうかの壁。30分集中して読んだら、残りの山場は一気に読みましょう。

④ 1時間以上読む集中力の壁

1日に1時間以上続けて英語を読めるようになるかどうかの壁。集中力、理解力、読書体力が要求される。

⑤ オーセンティックな英語への壁

「GRは読みやすいのに、児童書は読みにくい」と感じたらこの壁。児童書に登場する、日常生活で頻出する語彙に慣れましょう。

⑥ マンネリ化の壁

多読を続けていると必ずやってくる壁。経験者におすすめの本を聞いたり、レベルを下げたり、宝探しのように本を探し続けましょう。



多読経験者に相談しながら、本を借りられる。1、2日以内に読める量が基本。



授業では1週間の多読の進捗について学生同士で確認し、アドバイスし合う。

学校情報



常葉大学

学校法人常葉学園により、1980年に常葉学園大学として開学。2013年に浜松大学・富士常葉大学と統合したときに名称を変更。現在は静岡県の東中部を結ぶ富士・静岡・浜松の3つのキャンパスを持つ、10学部19学科の総合大学。2018年には静岡県駿河区に新しく草薙キャンパスが誕生する。<http://www.tokoha-u.ac.jp/>

100万語を突破する人の10の共通点

(同大学の多読リーフレットを参考に構成)

- ☐ 力を抜いて読書を楽しんでいる
- ☒ いつも面白い本を探している
- ☐ 無理せず、簡単な本を数多く読んでいる
- ☒ 多読で感動して泣いたことがある
- ☒ 生活の中に多読を組み込んでいる
- ☒ 多読ノートを毎日持ってきている
- ☒ 友達や先生と情報交換している
- ☒ 本の種類を熟知し、シリーズで読んでいる
- ☒ 語数や本など、目標を設定している
- ☐ スランプを乗り越える方法を知っている